

日住禅門御返事

弘安三年三月三日 五九歳

委細に示し給ひ候条是非無く候。仍^よつて祖父^{みょうごんしょうりょう}妙巖^せ聖靈の御志ねんごろに回向いた
すべく候。経文に「是人^{ぜにんの}於^{ぶつどう}仏道^{けつじょう}決^む定^う無^ぎ有^ぎ疑」と。此の文をひまなく御唱へあるべく候。
日月は地となり、地は天となるとも、此の経の行者の^{さんなくどう}三悪道に落つる事あるべからず。
恐々謹言。

三月三日

日蓮花押

日住禅門御返事